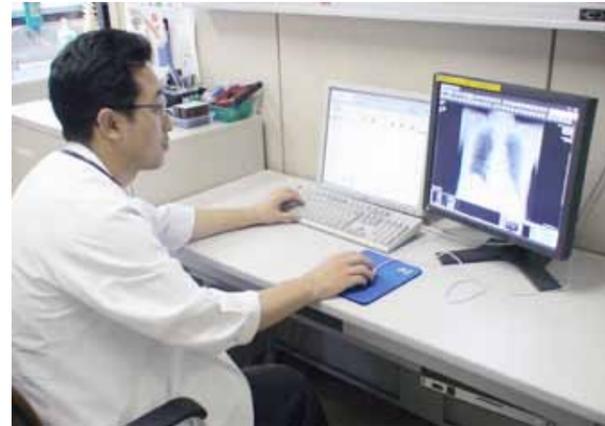


STELLAR を利用し、画像システムから検体結果までの統合管理システムを導入



内科 内田先生

導入経緯

業務の効率化により、患者様へのサービス向上を図るため、システム導入を検討

当院は、平成 20 年度のメイン事業として医療情報システムの構築を行いました。第一段階として PACS を 10 月に導入し、第二段階として医事会計システムの更新とオーダーリングシステムとその他の部門システムを平成 21 年 2 月に稼働させました。PACS 導入の検討は平成 19 年度に始まりましたが、当初の予算枠を超えることがわかったので平成 20 年度事業に持ち越されました。6 社によるプレゼンテーションやデモ機の運用を 4 月から行い、7 月にアストロステージの PACS を導入することに決まりました。

PACS 導入の理由は、一般的ではありますが、フィルムの現像、検索、整理、運搬等の時間を無くすことにより診療や検査時間を短縮して患者様のサービス向上を図りたいという点と、当院では特に倉庫が少なく、貴重なフィルム保管庫のスペースを他に転用して有効利用したいという点がありました。次の大きな理由は、平成 20 年度の診療報酬の改正でデジタル映像化処理加算の点数が下がり、新しく電子画像管理加算を算定する必要があったという点です。

導入にあたり必用事項としては、画像の質及び表示速度、画像ビューア操作機能、システムダウン時のバックアップ体制などがありました。当院の導入時の特徴は、非常勤放射線科医師が CT・MRI のみ読影していますがその他撮像画像は臨床医個々が読影する必要があるという点で、結果として高精細モニターの数が増えることになりました。しかし、レポートの運用が今後の課題として残っています。また、画像連携として紹介医の画像データを当院の PACS 端末で見る必要があり、互換性のあるシステムが必要なこと、医師会員を含めたカンファレンス時のコミュニケーションツールとして会議室に大きなモニターが必要になった点です。

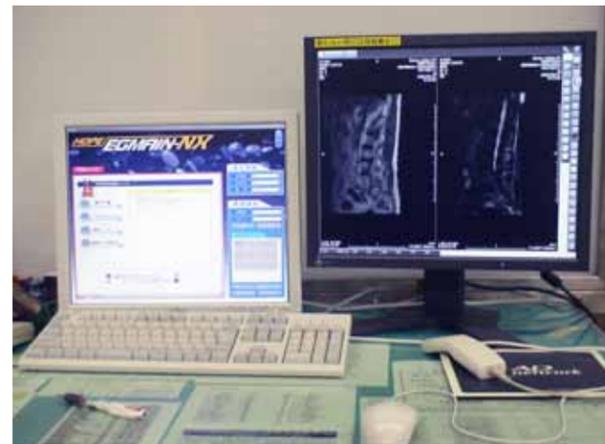
導入システム

DICOM 画像管理システム	Nazca
RIS システム	NazcaRIS
DICOM 変換ツール	Transfer Tool
診療情報統合システム	STELLAR

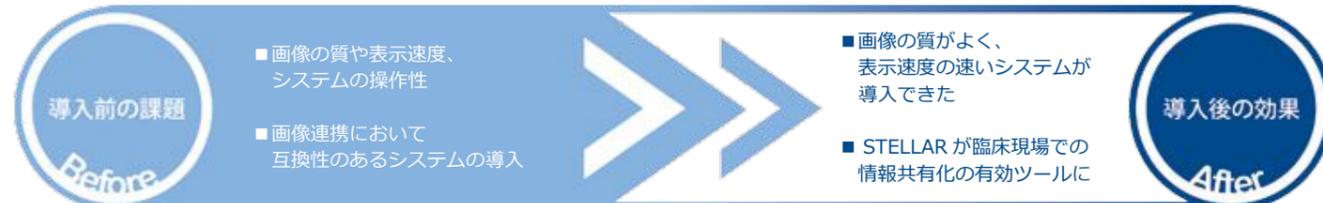
導入効果

採用の決め手は撮影画像の質、表示スピード
 ビューア操作機能の安定性と低コスト

アストロステージが導入経緯でリクエストした必要事項を全てクリアできたことは当然ですが、採用の大きな理由となった点は医師を中心に、デモ機を直接操作して相互比較することにより、画像の質や表示速度及び画像ビューアの操作機能の優秀さを確認できたことと、導入コスト及び保守サポート費用が他のシステムに比べて低額で、我々中小病院でもペイできる範囲であったこと、そして、STELLAR システムを同時に導入することができた点です。診療データを統括的に管理できるトータルファイリングシステム STELLAR は、画像と検歴を同時に参照することが可能で、利用価値が大変高く魅力的でした。臨床現場での情報共有の有効ツールになると考えました。



Nazca 使用端末



赤磐医師会病院：システム導入時期 / Oct 2008



当院の医療圏域である赤磐市及び岡山市瀬戸地域は、岡山県の中南東部に位置し、北部に山間医療過疎地域、南部に 2 つの大型住宅団地を抱える、温暖で自然環境に恵まれた果樹栽培が盛んな地域です。山陽自動車道山陽インターから 1 分の地にあり、都市部からのアクセスも大変便利です。病床数は全体で 196 床のうち、一般が 166 床、療養が 30 床で、内科、外科、整形外科、泌尿器科、循環器科、神経内科を標榜しています。医師会立の病院として開院当初からオープンシステムを採用し、また地域医療支援病院として地域医療や救急医療を積極的に展開しています。紹介率、逆紹介率ともに 70% を超え、MRI やマルチ CT などの高額医療機器の共同利用も大変盛んです。平成 20 年には病院機能評価 Ver.5 を取得しましたが、病院全体のレベルアップを痛感し、医療の安心安全、業務の効率化とサービスの向上を図るため、ここ 1 年間で医療情報システムの再構築に力を入れ PACS、オーダーリングを導入しました。

所在地：岡山県赤磐市下市 187-1
 病床数：196 床
 診療科：内科・外科・整形外科・泌尿器科・循環器科・神経内科・疼痛外来
 腎臓内科・糖尿病外来

今後の方針

昨年度のオーダーリング導入を経て、来年度には電子カルテ導入を望む声が大きくなっています。電子カルテをベースとして使用しているオーダーリングですので、PACS を含めその移行は困難なものではないと考えています。しかし、いつでもどこでも移行を実現するにはビューアが不足しており、ビューアの種類とその充足を考えたいと思います。次に、医師会病院では会員医療機関との地域連携が大変重要になりますが、会員が利用しやすい環境を、安全性が担保できる情報システムで構築していくことが大きな課題です。病院としては、担当医との文書の送受信や紹介患者の診療データの共有化を考えています。共有化により双方の業務効率化と密なる情報交換を可能にでき、自院でいつでも入院予約や検査予約ができるシステムを構築したいと思います。

今後の期待・要望

- 画像の検索機能の多様化への対応
 それぞれの病院の診療形態に対応するため、画像の検索機能もその利便性が問われると考えます。当院では主治医や担当医師別に検索できる機能も必要ではないかと考えます。
- 診療データの一元管理機能を充実
 STELLAR システムを拡張、発展させて、全ての診療データを一元管理できるシステムを期待します。できれば電子カルテと連動できたら良いと思います。
- 地域の医療機関が紹介した患者の診療データを共有し、自らの医療機関にいながら、紹介患者の入院情報や診療データを参照したり、患者の入院・検査依頼の予約システムを期待します。

システム構成図

